

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①「7つの力」を育むため、新学習指導要領に伴う教育課程を編成し、授業改善中心としたカリキュラムマネジメントにより運用する。</p> <p>②知的探究心や主体的に学ぶ学習方法の改善に努める。</p> <p>③生徒の思考力の向上を図り、判断する力を育むための組織的授業改善に全校で取り組む。</p>	<p>①新教育課程の学習活動と評価の実施をさらに深めるとともに、新旧教育課程並行実施の最終年度における両者の円滑な運用を目指す。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを主軸とした授業改善の推進を継続し、教科内外の組織的な取組をさらに進めていく。</p> <p>③指定校事業「学習評価に係る研究」をさらに進めるとともに持続可能な研究を実施する。</p>	<p>①新しい教育課程の学習活動のあり方を繰り返し共有しながら、旧課程との評価の手法の相違点を確認し、学習指導と評価の円滑な運用を進める。</p> <p>②教科全体で授業改善をさらに進めていく環境を整え、生徒の学習活動をさらに深化させる取組を進める。</p> <p>③指定校事業としての評価の研究の中で、生徒の「学びの調整力」の向上を図る授業のあり方と、その調整力の評価手法について組織的に検討する。</p>	<p>①新旧教育課程の相違と留意点について確認し、それを踏まえた成績関係の処理を周知徹底することができたか。</p> <p>②学習評価の研究とあわせて、本校における授業改善の視点を共有し、検討することができたか。</p> <p>③指定校授業の研究に向けた組織的で持続可能な取組を進めることができたか。</p>					
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①多様性と協調性を育み、コミュニケーション能力や協調性を高め主体的で協力的な取組を目指し、学校行事や部活動の活性化を図る。</p> <p>②一人ひとりの生徒への極め細かな支援体制の確立と外部機関との連携を深める。</p>	<p>①生徒主体の行事・部活動を支援するための教員体制を改善・構築し、可能な限り生徒の活動・活躍の場を提供できるようにする。</p> <p>①多様性の認知と理解をさらに進めるとともに、個人の尊重や協調性の育成に向けて教職員と生徒、生徒間のコミュニケーション活性化を図る。</p> <p>②情報発信ツール等も積極的に活用し、個々の生徒の課題や不安を早期に発見・対応するた</p>	<p>①生徒会執行部や各部活動に対して効率の良い活動の工夫ができるように部長会を通して働きかける。また顧問の相互連携・インストラクター等の外部人材の活用を図る。</p> <p>①多様性の認知に関わる啓発研修会を生徒・職員向けに開催する。</p> <p>②情報発信ツール等を積極的に利用し、生徒会と部活動間の情報共有の機会や生徒情報共有の機会を充実させる</p> <p>②個別支援が必</p>	<p>①生徒会役員の支援や必要に応じた部長会の開催ができたか。また映像配信等も織り交ぜながら、新たな行事の形について検討、実施できたか。</p> <p>①多様性をテーマとした研修会・学習会を生徒、職員向けに各1回以上実施できたか。</p> <p>②様々な情報発信ツールを活用した情報共有システムを構築できたか。</p> <p>②生徒情報交換機会を充実させ、必要に応じてケース会議を</p>					

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		めの体制を整えるほか、SC、SSWと連携し多様な支援の手立てを構築する。	要な生徒へ、チーム支援により対応の充実を図る。	開催できたか。情報共有が速やかに行えたか。					
3	進路指導・支援	①自立した市民として社会で活躍する力を育むための進路希望実現を体系的な指導と情報提供・支援により行う。 ②長期的な展望に基づくキャリアプランを主体的に考えることができる資質を育む。	①長期的な視野に立ち、計画的に次の進路を考えられるよう適切な指導を行う。 ②変化する社会、入試制度に対応できるような情報収集の確かな方法、主体的に判断する力を養う指導を行う	①十分な情報提供を元に、探究・LHRの時間を通じて長期的な視野に立った進路計画を作成する指導を行うとともに、適切な時期に説明会等を行う。 ②新課程に対応する入試制度についての情報収集に努め、対象学年の生徒に対して、説明会等で指導を行う。	①長期的な視野に立ったライフプランニングから第一志望届が提出できたか。 ②入試制度の改革についての情報収集が適切に行えたか。 ③対象生徒や保護者に対して、入試改革についての説明会が実施できたか。				
4	地域等との協働	地域等との連携や協働を進め、持続的な発展を可能とする社会で一定の役割を果たす。また、地域交流、ボランティア等を通じた社会貢献により、開かれた学校づくりに取り組む。	①学校におけるIT環境の整備とともにアフターコロナに向けた新しい地域との連携の方法を模索する。 ②学校のホームページ等のITを活用しつつ地域や入学希望者と対面して学校の魅力を発信する。	①IT環境を活用し、コロナ禍で変化した新しい地域との連携の方法を協議または実践する。 ②学校のホームページ等において、生徒の学びが分かる情報発信を行う。 ③説明会、学校行事または地域交流を通じて対面しての学校の魅力を発信する機会を増やす。	①IT環境を活用し、コロナ禍で変化した新しい地域との連携の方法を協議または実践することができたか。 ②学校のホームページ等において、生徒の学びが分かる情報発信を年間20回行えたか。 ③説明会、学校行事または地域交流を通じて対面しての学校の魅力を発信する機会が増加したか。				
5	学校管理 学校運営	生徒の安心・安全な学校生活の場としての学校の管理運営を推進するとともに、職員による業務改善、意識向上により事故・不祥事防止を図り、効率的な学校運営を行う。	①避難訓練及びDIG研修を通じて命を守る教育の推進と生徒の防災・減災への意識を醸成する。 ②不祥事事故防止の意識向上を図り不祥事根絶を目指す ③教職員の働き方改革を推進し効率的な学校運営を目指す。	①DIG研修等を通じて防災・減災への意識醸成と共に地域を守る一員としての自覚を養う。 ②事故不祥事防止研修機会を定期的設け、職員の意識向上を図る。 ③時間外労働の抑制や年休等の取得の推進を図る。	①生徒の主体的な研修等への取組みにより防災・減災への意識の向上が見られたか。 ②年12回以上の事故不祥事防止研修機会の設定と不祥事の根絶を図れたか。 ③時間外勤務の削減や年休等取得率が前年度比で改善したか。				